



Simplex Institute

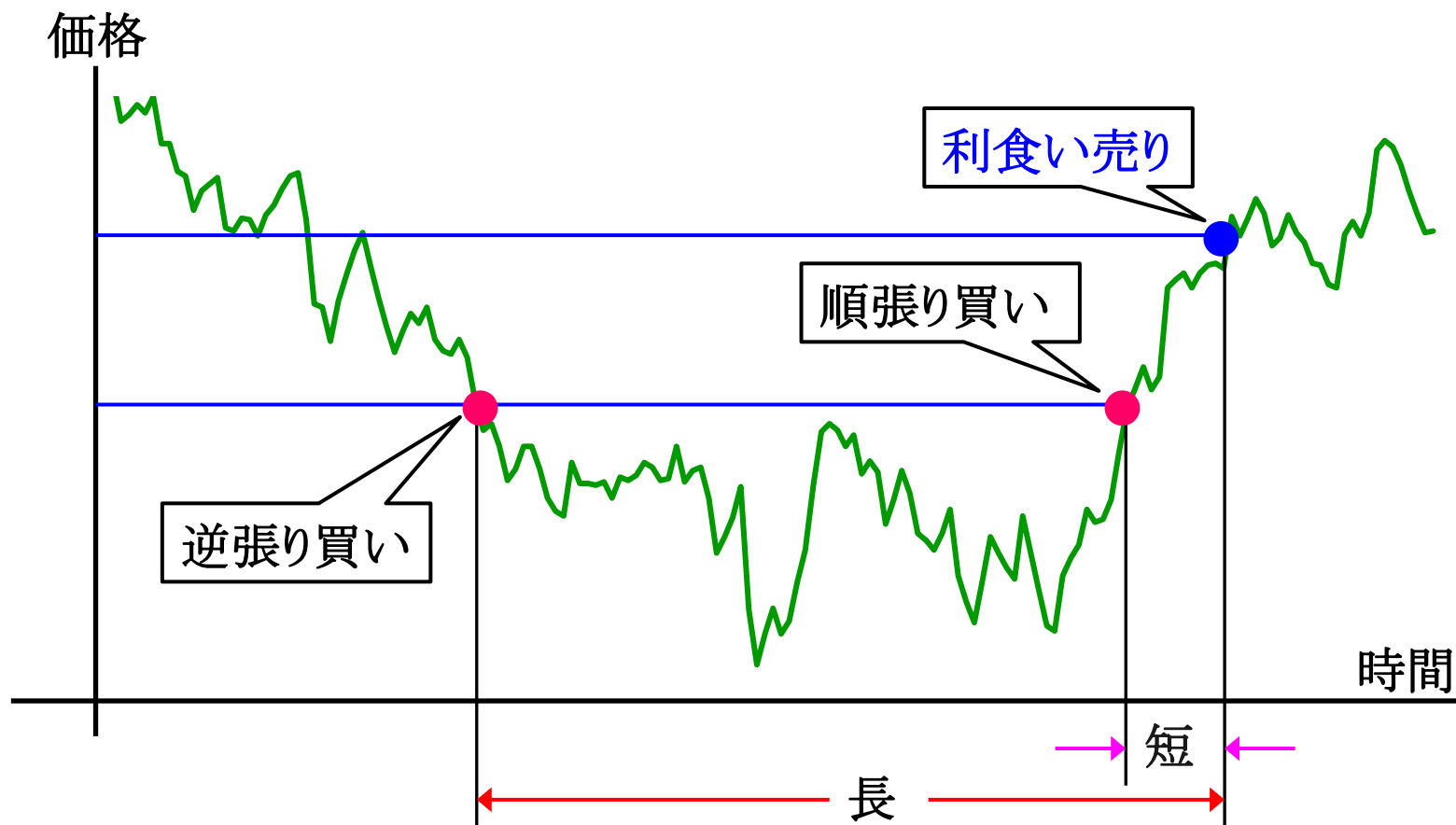
# 先物の使い方 アウトライトと下落ヘッジ

2026年 2月

# 個人投資家の先物の使い道

- 「**アウトライト**」(原資産の騰落に賭ける売買)の道具としての先物  
「相場の流れ」や「参加者の動き」に合わせてポジションを取り利益追求  
例：相場上昇に賭けて、先物を買う  
→ 「必勝法」など存在しない(探し求めること自体が無意味)  
「勝ち続ける」には極めて優れた相場観と豊富な経験が必要
- 「**ヘッジ**」の道具としての先物  
市場価格変動リスクのヘッジに先物を使う  
例：相場下落の際の株式ポートフォリオのヘッジ  
オプションのデルタ・ヘッジ  
→ 先物本来の使い方, この技術を身に着けることが「手練れ」への道

# 「アウトライイト」の基本は「順張り」



同じ利幅でも「利食い」までの時間は逆張りの方が長い

→ 逆張りはリスクを取っている時間が長く、利が乗るまでの間は不愉快

# 「アウトライト」のコツ

- (1) 損切りの幅に決まりはないが、損切りのレベルに達したら**必ず**損切る  
→ 「感情が最大の敵である」ことを常に意識せよ
- (2) 証拠金額は投資資金の **20%**を超えないようにする  
→ これにより最低 5回ポジションを取れ、かつ最大ポジションが決まる
- (3) 相場観の強弱によってポジションの大きさを調整する  
→ 最大ポジションが日経ミニ 1枚なら、日経micro 10枚以内で調整
- (4) 3回連続で負けたら、その日は取引を中止する  
→ 相場観に基本的な間違いがあると考え
- (5) 欲張らない(利食ってなんぼ)  
→ 「もう少し我慢したら、もっと儲かった」と考えることは何も意味がない

# なぜ「アウトライト」は難しいのか

答：大局的には市場参加者の「関心事(相場のテーマ)が変化する」から

あるときは「米国の関税問題」が市場の関心事であったり、また別のときには「国債利回り」であったりする

最近の例で言えば、「高市内閣発足への期待感による相場上昇」がある  
こういった市場の「関心事」をいち早く察知し、その流れに乗ることができれば  
大局的には問題がない

しかし、上手くいっているからと言って、「関心事の変化」を見過ぐすと  
大きな損失に見舞われる

解決策：ニュースに出てくる「言葉」の頻度に注意すること

これまでの動きとの違いを感じたらポジションを速やかに落とす

# なぜ「アウトライト」は難しいのか(続)

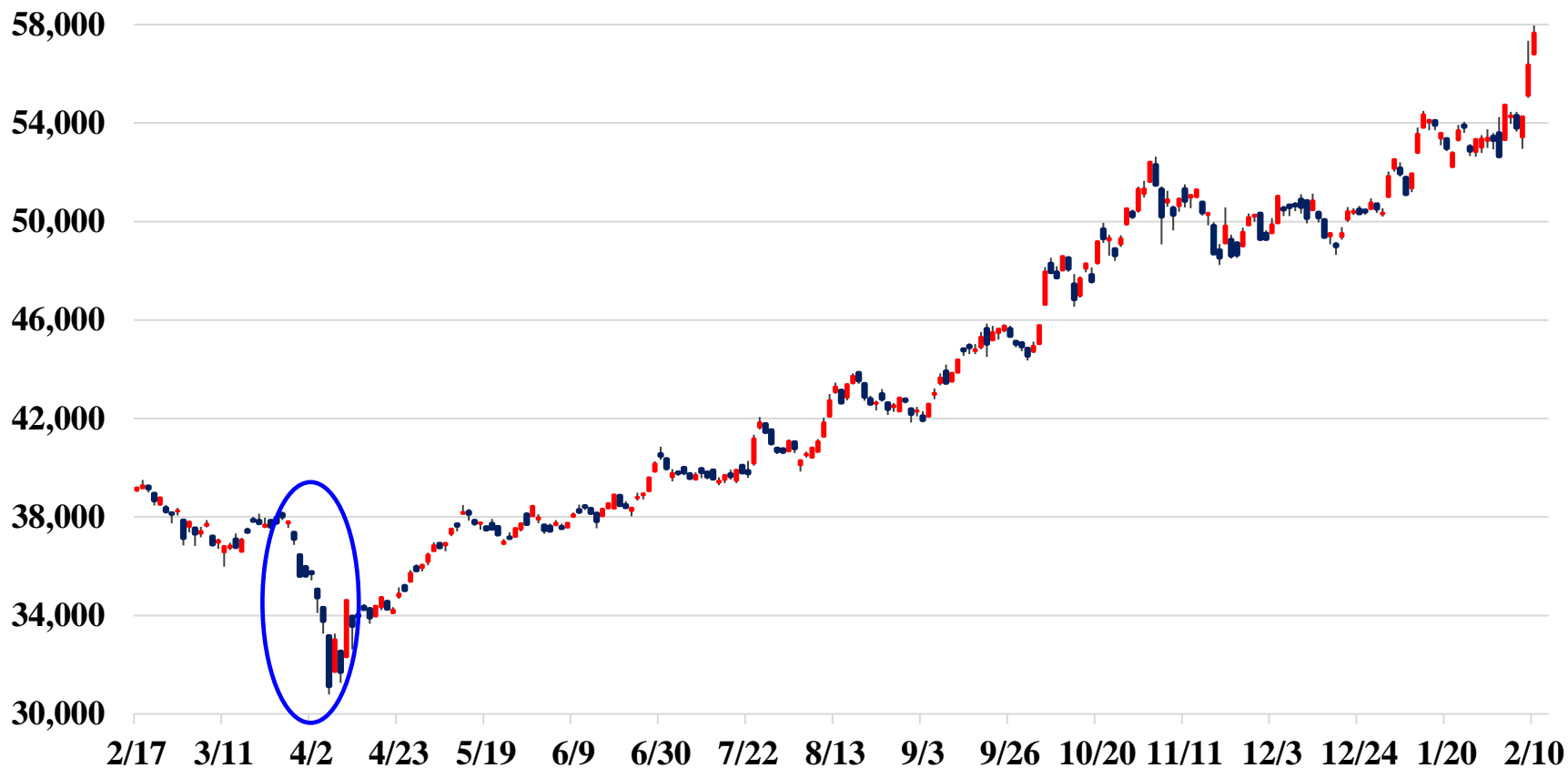
答：局所的には自身の「記憶」に縛られるから

例：以前に利食った値段を忘れることができず、その値段に囚われる  
高値・安値を気にする

これらはすべて「過去の情報」であり、過去から未来がわかるわけではないと  
考えれば「自由」になれる

解決策：「相場では過去は何も教えてくれない」と言い聞かせる  
素直に「負け」を認める

# 記憶に残る下落(2025年4月)



株やETFを保有していたら4月7日を底とする下落は痛い目にあつた  
しかし、先物を使うことでこの大幅な下落を「**利用**」できる → 「下落ヘッジ」

# 先物による「下落ヘッジ」

状況：2025年3月27日(木), 株式を 3銘柄保有

日経平均は 40,000円をつけてから下降気味

希望：米国の関税政策による下落リスクをヘッジ(回避・軽減)したい

戦略：株式時価総額に相当する日経micro 4枚を売り, 下落終了後に買戻す

銘柄			2025/3/27 終値		2025/4/7 終値		損益
コード	名称	株数	価格	持高	価格	持高	
7203	トヨタ	200	2,828.5	565,700	2,266.5	453,300	-112,400
8306	三菱UFJFG	200	2,178.5	435,700	1,495.5	299,100	-136,600
8031	三井物産	400	1,419.5	567,800	1,278.5	511,400	-56,400
	現物株合計			1,569,200		1,263,800	-305,400
	6月限micro	-4	37,410	-1,496,400	30,960	-1,238,400	258,000
	合計						-47,400

先物によるヘッジをしなかったら保有株 3銘柄からの損失は約 300,000円

そこから回復するにはその後 3ヵ月近くを要する

# 先物による「下落ヘッジ」のコツ

(1) ヘッジの先物売買のタイミングは「順張り」

下落が始まってから売り, 底を打って反転し始めてから買戻す  
結果, 「出遅れる」ことは避けられないが気にしないこと

→ 何もしないで相場下落をただ眺めているよりはマシ

(2) ヘッジに必要な先物の売り枚数は保有株時価総額と同程度の枚数

理論的にはポートフォリオ・ベータ( $\beta$ )を使うが, 大幅下落の際には  
ポートフォリオ時価総額と同程度の枚数を売れば十分に機能する

→ 「ここで相場が大幅下落したら, ヘッジの先物を何枚売るべきか?」を  
いつも考えておくこと

(3) 日経平均銘柄でない銘柄を保有している場合は **TOPIX**先物を使う

# さらなる勉強のために

大阪取引所から公開されているサイト

『OSE先物・オプション シミュレーター』

( <https://www.fopstudy.com/> )

- (1) 無料で先物・オプション取引を体験
- (2) ゲーム感覚で楽しく学習
- (3) 本格的な取引画面
- (4) 解説動画付きで分かりやすい

# 講師プロフィール

伊藤祐輔(いとうゆうすけ)

株式会社シンプレクス・インスティテュート 代表取締役

1976年早稲田大学理工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了. 偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社. 株式部長, 株式デリバティブトレーダーとしてマーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現クレディ・アグリコル証券)に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年(株)シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

---

## 免責事項

当資料の内容は, 投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり, 投資の勧誘を目的としたものではありません.

投資に関する最終的な決定は, ご自身の判断と責任においてなさるようお願い致します. 株式会社シンプレクス・インスティテュートでは, 当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても, 一切の責任を負うものではありません.

**無断転載を禁ず**

当資料の全部, または一部を無断で複写・複製・転載, および磁気・高記録媒体に入力することなどは, 著作権法上の例外を除き禁じられています.

株式会社シンプレクス・インスティテュート

〒105-6223 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階

URL: <http://www.simplexinst.com>

# 参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

## ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクローリング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

## ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。  
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

## 金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

### 金融商品取引法等に係る表示

[https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040\\_torihikihou.html](https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html)

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会